

オアシス21 感染対策委員会

症 例 概 要 入所者：女性 100歳代 要介護5

病名：アルツハイマー型認知症、右脳梗塞（左不全麻痺）、うっ血性心不全、高血圧症、左大腿部頸部骨折後（保存療法）

経過：長男宅に同居していたが、H21年頃より認知症状が強く、グループホーム入所も施設閉鎖となったためH23年11月に当施設入所。

認知症が進行する中でR3年8月脳梗塞発症、同年11月転倒による左大腿部頸部骨折発症も認知症重度にて緩和ケア方針にて当施設R3年12月に4回目入所となる。

介護ケア拒否も強くBPSD症状の緩和ケアを継続していたが、

R4年7月コロナ陽性者第1号となり高熱、食欲不振に陥り、生命の危機となった。認知症ケアをしながら療養継続する方針となり、入院ではなく施設療法のもと、ラゲブリオ内服を発熱初日の早期に治療開始し感染対応しながら介護ケアを提供し元気に回復された事例の紹介。

内 容

H23年11月当施設入所。

入所当初は混乱状態強く、表情陰しく施設内歩き回り大声や介護拒否が強く、歩行時は常に付き添い介護をしていた。

R3年右脳梗塞発症され左不全麻痺、同年11月転倒による左大腿骨転子部骨折になり、寝たきり状態となるが認知症重度にて介護拒否がつよく、BPSDの対応をしながらケアを継続していた。

R4年7月KT38.1℃発熱と口腔アフターを生じ食欲低下がみられコロナ陽性者第1号となる。その後利用者8名職員5名陽性者発生となりクラスターが発生。感染対応の中で認知症状がつよい入居者さんの全身管理をすることになった。

「入居者さんの笑顔を取り戻したい」とチームオアシス一致団結のときと決意し、治療と認知症ケアと感染対策の3強対策を図った。

①感染対策委員会にて部屋の隔離、窓エアコンの調整、サーキュレーターにて居室空気が廊下にもれないよう設置。外部業者へ洗濯や廃棄物の処理了解頂き、各業者よりペーパータオルや使い捨て上下着の寄付をいただきました。

②Drはコロナ感染症薬の新薬ラゲブリオ内服についてご家族へ説明同意いただき早期に治療開始が

できました。

③看護・介護は認知症重度のため、点滴管理困難にて脱水予防に飲水ケアの計画をたて介助に入る。多床室のため毎日ケア専属制をとり食事、排泄、口腔ケアと一貫したケアにつとめたことでBPSDの緩和ができケア拒否も少なくなっていった。

④栄養科はクラスター発生により高カロリー食品を提供し介護の手不足と食事量UPの両立をはかった。

⑤個別リハビリは保健所から中止の指示があり、感染解除後にリハビリ再開。寝たきり状態であるが端座位可能になる。その他利用者へ健康体操1日3回実施でき感染棟に笑いが生まれ微笑ましい光景がスタッフのモチベーションにもつながった。

⑥相談員はご家族へ連絡して生命の危機状態からの経過連絡を担った。

微熱経過であったが徐々に体力回復され、発症後10日後に感染対応解除となり、現在は食欲も快復され、入居者さん本来の笑顔が戻ってきました。

保健所からは高齢者施設でこれだけの治療や感染対策ができたのは「ほこり」に思うと言っていた。同法人の健育会からの情報共有や花川病院の協力があり事前準備もある程度できており法人全体で感染対策しながら寄りそいケアができた事例としてご報告いたします。